

看護学科における国際交流活動の現状と課題

－第2報 米国ウオッシュバン大学看護学部との国際交流－

有田 久美^{1),2)} 大城 知子^{1),2)} 石橋 曜子^{1),2)}
田島 康子^{1),2)} 宮林 郁子^{1),2)} 黒木 求^{1),2)}

¹⁾ 福岡大学医学部看護学科 平成 25 年度国際交流委員

²⁾ 福岡大学医学部看護学科

要旨：当看護学科の国際交流活動のひとつとして、福岡大学最初の海外協定校である米国カンザス州ウオッシュバン大学の看護学部と、2012年に国際交流プログラムを始め、2年間に計20名の看護学生と4名の教員を派遣した。学生達は英語クラス、看護クラス、病院実習、ケア施設見学、ホームステイなどのプログラムに積極的に関わった。参加者の研修内容への満足度は非常に高く、視野は拡大し、学習や教育のモチベーションが高まり、将来のキャリア形成にも好影響を与えたと考えられた。2014年にはウオッシュバン大学看護学部長を福岡に招き、ウオッシュバン大学の看護学生・教員との交流を福岡で行うことを話し合った。今後このプログラムをより充実させるためには、研修先の選定や事前の語学力の向上、両国の医療・看護に関する基礎的知識の習得等、改善すべき課題も多くあるが、今後そうした課題を解決していきながらプログラム内容を充実させることを進めていきたい。

キーワード：国際交流，米国，看護学生，看護教員，看護学科